

塩野川町内会
設立50周年
記念誌
塩野川町内会のあゆみ

福島県伊達市梁川町

塩野川町内会

塩野川町内会 設立50周年記念誌



塩野川
町内会の
あゆみ

福島県伊達市梁川町
塩野川町内会

塩野川町内会設立50周年記念誌 塩野川町内会のあゆみ

～ 目 次 ～

町内会設立50周年記念誌の発刊にあたって（塩野川町内会 会長 引地 勲）	3
--------------------------------------	---

【祝辞】

設立50周年を祝して（伊達市梁川総合支所長 岡崎 利浩）	4
設立50周年に寄せて（第7代会長 菊地 新一）	5
設立50周年に寄せて（第8代会長 清野 征夫）	6
塩野川町内会設立50周年を祝して （伊達市消防団 梁川支団 第一分団 訓練指導員 熊木 利勝）	7

塩野川町内会50年のあゆみ	8
塩野川町内会歴代役員名簿	21
塩野川町内会各種団体歴代役員名簿	23
塩野川町内会年度別収支決算額一覧表	26

【塩野川沿革史】

塩野川地内のあゆみ（梁川町郷土史研究会 八巻 善兵衛）	27
町谷川遺跡（梁川町郷土史研究会 菅野 康男）	34
舟場繁盛記（梁川町郷土史研究会 大橋 彰）	36
水天宮・熊野神社（梁川町郷土史研究会 菅野 康男）	40
塩野川源流を訪ねて（梁川町郷土史研究会 大橋 彰）	44

水とのたたかい ～ 塩野川防災団の活動記録 ～	46
塩野川会館建設記録	56
東日本大震災・福島第一原発事故の記録	60
各種スポーツ大会とレクリエーション大会の記録	63
再生資源回収事業	66
塩野川納税組合（納税貯蓄組合）の記録	68
思い出のアルバム	72
50周年を迎えた町内会員の皆さん	78

【随筆】

私の50年間の思い出（因藤 賢太郎）	81
塩野川と私の思い出（名谷 明雄）	82
塩野川と私の思い出（斎藤 一郎）	83
少年期の思い出（小野 英男）	84
塩野川の思い出（荒木 幸夫）	85
塩野川と私の思い出（長沼 利雄）	86
塩野川町内会史の編集にあたって（岡崎 邦雄）	87
塩野川町内に暮らして（斎藤 正道）	88

【各種団体メッセージ】

塩野川婦人会（理事 川上 トシ子）	89
塩野川にここに会（代表 氏家 誠）	90
塩野川元気づくり会（会長 一條 真紀子）	91
塩野川体育振興会（会長 砥石 あきみ）	92
塩野川子供会育成会（会長 神植 悠）	93

塩野川町内会規約	94
----------	----

編集後記	97
------	----



町内会設立50周年記念誌の発刊にあたって

塩野川町内会 会長 引地 勲

塩野川町内会設立50周年記念誌の発刊にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。塩野川町内会は昭和42年に設立されました。設立当初はソフトボール大会、家庭バレーボール大会などスポーツ熱が盛んで応援団の結成、そして寄付金や助成金など町内会挙げのスタートであったとのこと。50年には第1回町内会大運動会が行なわれ、スポーツを通じて町内会のまとまり、団結が更に深まって行きました。

設立11年後には借用ではありましたが、念願の集会所を持つことが出来ました。更には自前の集会所を持ちたいという地区民の願いで、土地購入資金、建設資金の積立が全戸参加で7年5ヶ月に及び毎月積立が続けられました。こうして地区民の一丸となった汗の結晶で現在ある塩野川会館が完成したわけです。

私はこのことは何処の町内に対しても誇れるものと思っております。地区民の町内会に対する情熱がひしひしと感じられる会館建設であったものとその労苦に頭が下がります。

そして、水との闘い。塩野川地区は過去に幾度となく浸水の被害に脅かされ、大雨の降るたびに水害の恐怖にさらされる地区であります。そのために梁川町の中でもい

ち早く水防団が結成され、水害の度に出動という水との闘いの歴史でもありました。現在も塩野川防災団としてその活動が継続され、毎年の防災訓練を始め、種々の防災活動が行われております。この防災団の活動も塩野川町内会の活動の歴史でもあります。こうして、いろんな分野においてたゆまぬ努力が設立50周年を迎える原動力になったものと思います。その先人たちの思いや努力を引き継ぎ、こんにち、各種団体の皆さんの活躍が町内会に対して新しい力を吹き込んでくれております。力強い限りであります。この期にあたりまして、これまで町内会を先導してくれた皆さんを始めとして、全員の町内会の皆さんに感謝申し上げます。また、これまでご協力、ご支援を頂きました関係機関の皆様にも御礼を申しあげます。おかげ様でここに塩野川町内会設立50周年記念誌を刊行することが出来ました。どうか、ご一読頂ければ幸甚に存じます。



設 立 5 0 周 年 を 祝 し て

伊達市梁川総合支所長 岡崎 利浩

塩野川町内会設立50周年にあたり、心よりお祝いを申し上げます。

日頃より引地敷町内会長様はじめ皆様には、市政各般にわたり深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昭和42年の設立以来、町内会館建設や自衛水防団、防災団活動など、半世紀の町内会活動を振り返り、これまでの苦労と努力の積み重ねにより今日があることを思う時、心より敬意を表するものであります。

塩野川地区は、これまでも何回となく水の被害を受け、洪水との闘いの歴史でした。自衛水防団を昭和58年に梁川町内でもいち早く立ち上げ、8・5水害翌年の昭和62年には防災団を結成するなど、防災意識がとても強い町内会であります。

私の手元に「やながわ50年の軌跡」という冊子があります。梁川町が合併時に作成した記念誌で、昭和61年8月5日の水害記録の記載がありますので、紹介します。

～午前6時の阿武隈川の水位は7㍎（八幡水位観測所）、舟場地内堤防の約1㍎下まで増水し、なおも上流各地で警戒水位を超えたことから、6時20分舟場地内に、さらに塩野川地内に避難命令が発令されました。阿武隈川の水位はなおも上昇し続け、舟場地内の堤防から越流の恐れが出てきた

ため、土嚢を積むなど懸命な水防活動に努めました。しかし、午前7時43分には水は堤防を越え、約15分後の午前8時堤防が決壊、濁流となって舟場、塩野川地内を襲いました。（以下略）～

翌日に私達町職員は被害状況の調査、家庭等から出され山積みとなったゴミの撤去作業に当たりました。熊野神社の境内に高く積まれた様は、鳥居が見えない位でした。最近神社前を通った際に、その鳥居が新しくなっていたことを見つけました。町内会の皆様によって建立されたことでしょう。

また、ソフトボール、バレーボールなどスポーツ活動が大変活発で、数々の優秀な成績を残されているとお聞きしています。私も職場チームでソフトボールをしていた時、塩野川チームと何度も対戦しましたが、とても強い相手でした。当時選手で活躍されていた方々が、現在町内会で活躍されていることと思います。縁ある塩野川町内会の50周年記念誌に寄稿の機会を頂き、ありがとうございました。

結びに、50年の歴史ある塩野川町内会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いのあいさついたします。塩野川町内会設立50周年、誠におめでとうございます。



設 立 5 0 周 年 に 寄 せ て

第7代会長 菊 地 新 一

町内会を設立してから50年を迎えましたこと、誠におめでとうございます。

私が子どものころは、塩野川地区と舟場地区に20数軒、新しい道路沿いに2軒だけ住宅が有り、一面に田んぼと畑が広がっていました。

夏になりますと、水天宮様に参拝した後、木橋だった梁川橋の下で水遊びをしたことが、楽しい思い出に残っています。

町内会が設立された当時、菅野町政は田園都市を目指しており、住宅が建てられる市街化区域は少なかったのですが、塩野川地区は市街化区域でしたので、軒数も人口も増加し始めたころだと思います。

その後、皆様の努力で大きく飛躍し続けて、現在は梁川地区で最大の町内会に発展維持しているのではないのでしょうか。

平成19年から6年間、皆様に支えられながら会長を務めさせていただきましたが、平成23年に起きた東日本大震災・東京電力原発事故が強烈に頭から離れません。住宅の被害、停電、断水、ガソリン不足など、ただ、右往左往するばかりの中、民生委員の清野征夫さんが一人暮らしや高齢者世帯を把握しており、安全確認を行っていただき、大変助かりました。

当時の防災団活動は、水害対策に重点を

置いていたために、組織としての機能を発揮することができませんでした。

市からの情報提供は何ひとつなく、例えば、給水車が総合支所前において給水していることさえ、会員に周知することができない状況で、それほど混乱しておりました。さらに、追い打ちを掛けるように原発事故で放射能漏れがあったことを、電気が回復しテレビ放送を見て初めて知り、どう対応するべきか混乱するばかりでした。

災害時には、いち早く情報を把握し、いち早く情報を発信すること。その体制がいかに必要かを痛感いたしました。防災団の組織と活動についての見直しを、団員の方々と一緒になって考えたことが思い出されます。

しかし、そのような中でも、会員の皆様は意外と冷静に行動をし、前向きな考えで協力し合いながら連携できたことは、すばらしいことであります。

協力と融和をもって、塩野川町内会が今後ますます発展することを御祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



設 立 5 0 周 年 に 寄 せ て

第8代会長 清 野 征 夫

昭和42年4月塩野川町内会が設立されて、本年で50周年の記念すべき年を迎えますこと町内会皆様と共に心からのお慶びを申し上げます。

50年の歴史は優れた先達先輩皆様の勇気と英断、そして友情と共助を基に地域づくりに励んでこられた賜ものであり衷心より敬意と感謝の意を表します。

私は、昭和39年10月東京オリンピック女子バレーボール優勝の日梁川町に転入居住し、その後南町谷川町営住宅に転居、昭和52年12月塩野川の現在地に永住の居を求め、塩野川町内会員に加えていただき40年を迎えました。

私の生誕地には集落付合いはあっても町内会という言葉には馴染みがなく、学びの心からスポーツ団体の体育振興会に加入し、町内会員との親睦をもち交流してきたことが思い出です。

当時は、阿武隈川梁川大橋の下、五十沢側に運動広場があり、町内ソフトボール大会や芋煮会、運動会等が開催されましたが大雨のたびに表土が流失するため2年位で閉鎖された記憶があります。

50年の歳月には、のどかな田園桑園の風景から、桃、りんごの果樹園、そしてきゅうり、いちごのパイプハウスにと農家の

経営形態は急速に変化しつつ、昭和61年8月5日の大水害、平成23年3月11日の東日本大震災と福島原子力発電所の事故、その他多くの困難に遭遇しながらも地域防災団の結成、会館の建設等町内会員の英知を結集し、お互いの絆を深め今日の町内会があることを心にし、梁川バイパスの早期完成を念じ塩野川町内会の進展と皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。



塩野川町内会設立50周年を祝して

伊達市消防団 梁川支団 第一分団

訓練指導員 熊木 利勝

塩野川町内会設立50周年という記念すべき年を迎えられ、ここに記念誌を発刊され、その歩みを振り返り、未来への発展につなぐ糧とされますことは、誠に意義深いものであり、心からお祝いを申し上げます。併せて、創設以来、町内会発展と充実のために、献身的にご尽力を頂きました歴代の会長様をはじめ役員方々の御苦勞に対しましても、深く敬意を表すると共に心から感謝申し上げます。

また、常日頃から、消防団活動に際しましても、町内会の皆様方には多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近年は、ゲリラ豪雨・スーパー台風・猛暑など毎年のように異常気象に見舞われています。～備えあれば憂いなし～という言葉があります。避難場所はどこか・緊急連絡先はなど、各家庭内での防災意識をしっかりと持ち、万が一に備えて、もう一度確認して頂くことをお願い致します。我々消防団も訓練はもとより、防災会などを通して、皆様方の一助となるよう活動してまいります。

終わりに、塩野川町内会皆様の、益々のご発展とご健勝を祈念しまして記念誌発刊によせてのお祝いのことばとさせていただきます。

～ 活動のご報告 ～

配備車両は、伊達市消防団で唯一のタンク車です。2トンの水を積載していて水利のない場所でも放水が可能で初期消火には欠かせません。大町コミュニティーセンター（見附屯所）に格納されています。



見 附 屯 所 配 備 車 両



消 火 栓 の 雪 か き 作 業